

山崎・台峯緑地（都市緑地）基本設計（素案） 市民説明会会議録

日時：令和6年（2024年）11月29日（金）
午後7時00分から午後9時00分まで
場所：鎌倉市役所第3分庁舎 講堂

1 出席者

- (1) 市民：43名
- (2) 事務局：鎌倉市都市景観部 田中次長兼みどり公園課長
みどり公園課 整備担当 北村係長、木村主事、水谷主事
サンコーコンサルタント株式会社 3名

2 議題

- (1) 山崎・台峯緑地（都市緑地）基本設計（素案）について

3 議事内容

- (1) 山崎・台峯緑地（都市緑地）基本設計（素案）について
事務局から資料に基づき、山崎・台峯緑地（都市緑地）基本設計（素案）について説明

[市民] 全部で6個ぐらい質問がある。最初に今回の整備の目的の一つに生物多様性という話があった。現状として台峯緑地の中に今、環境省が生態系被害防止外来種などに指定している侵略性の高い植物が結構はびこっている状況があるので、この辺の対処対策について教えてください。あと自然環境の保全についてご説明があったが、近年鎌倉だけでこの辺で多いナラ枯れに対する防止対策や対処の方法についても教えていただきたいというのが2つ目の質問です。3つ目は誘導サインについて、既存のサインについては今回手を加えないという話だったが、この既存のサインについては、設置箇所や内容について問題があると今まで利用していて感じる場所があります。この辺についても対策などを教えていただきたい。4つ目の質問は散策路について、ドレンの壊れやわだち掘れに対する防止策について言及がなかったが、この辺に対してどのような対策や解消を考えているのか。階段を設置されるという話だったが、階段を擬木で作られるという話だった。これというのは今回説明の中にあった、県が整備されている『はやま三ヶ岡山緑地』にも擬木で作った階段の周りが水や雨水が流れて土が流れてしまい、階段が階段として用をなさなくなっている場所がいくつかある。そうならないようにする対策や対処は考えているのか。5つ目の質問は、今回の眺望広場、地元の人が老人の畑と呼んでいるところに水飲み場を設置されるという話があったと思うが、こちらに関して個人的な感想も含まれているが、本当に必要なのか。現状でも南管理事務所にも水道や水飲み、そして利用できる水道口があるのに、ここままで水飲み場が本当に必要なのか。水飲み場を設置するということは、水道管をあそこまで引かなくてはいけないということになりますし、そこに水飲みを設置すると、それを維持保全するための管理費用が発生するので、正直あそこに水飲み場が本当に必要なのか。あそこに行く前に南管理事務所で水を補充して持っていくだけの手間

済む。疑問に感じたので、質問したいと思いました。最後の質問ですが、桜類の保全と保存という話で、ここで自生している大島桜というお話があったが、これは本当に自生なのか疑問に感じました。結構こういう代表される里山と言われる自然環境で尾根沿いに桜があるのは、基本的には人間が植えている場合がほとんどだと思う。これが自生しているっていうのはどういう根拠で言われているのか、気になった。どういう考えに基づく話になっているのか気になりました。

[事務局] まず、生態系の配慮について、今現状で施設整備は最小限にすることとしており、造成などの予定はございません。なるべく生態系に影響が出ないような形の施設整備にして、階段や転落防止柵、利用する方の安全性の部分に関しては、鎌倉市としても必要なものと考えていますので、そういう形の基本的なものは整備させていただいて、それ以外の必要のないものは、なるべく生態系に影響が出ない形で整備していきたいと考えています。ナラ枯れに関しては、現状の管理のやり方としては、ナラ枯れしてしまったもので園路や民家に影響が出てしまうところに関しては、鎌倉市の方でその都度伐採の業務を発注して対処しています。以前はナラ枯れの薬液を散布したこともあるが、現在は枯れてしまった樹木を伐採する形で管理をしています。次にサインの設置箇所について、既存のサイン箇所については、風致公園を整備した際に設置させていただいています。そちらのものは基本的に使わせていただいて、新しく今後設置するものに関しては、必要性などを皆さんのご意見をお伺いして、判断をさせていただきたいと考えています。次に擬木階段の土の漏れについて、整備した後の都市緑地は指定管理業務として第三者の管理を考えています。土が漏れたところに関してはその都度、土の充填などの管理があると思います。指定管理者と協働し対応していきたいと考えています。次に水飲みの必要性に関して、現時点で様々な方からご意見をいただいています。水飲みの必要性に関しては、皆さんのご意見を集約し、本当に必要なのか検討していきたいと考えています。最後に自生する桜の保全について。こちらに関しては自生していたのか、誰かが植えたのかを判断する過去の資料がなかったので、自生として判断しました。

[市民]: 今の回答に対して追加の質問ですが、路面などに対する防止策や対策について質問するのは、最近私自身が台峯緑地の整備のボランティア活動に参加しており、今までもいろいろな話を聞いています。谷戸池のそばの散策路について、以前管理者の方が排水のために路面の形状を変更したということがあった。それをしたおかげで逆に排水されすぎてしまって、特有の植物の環境が変わってしまって生えなくなるのではと懸念された。ヘイケボタルが生息する水場があるが、その水まで全部排水されてしまった。市役所の方にうちの団体の方々も申し入れをされて、その辺の手直しをしていただいた事例があった。そういうことがあるので、生物多様性の保全という意味合いとプラス安全性というのを、バランスの問題だとは思いますが、その辺どうやって考えていて、それをこの計画に全て盛り込むのかということが気になったので質問させていただいた。あともう一つ、水飲み場に関しては、台峯は南管理事務所から入るとたいして登らずに眺望広場まで行ける。それに対して、横須賀線を挟んだ反対北側にある六国見山森林公園は、どの入り口から入っても相当登らないと上の展望広場に行けない。下の入り口のところには水飲み場があるが、上の展望台のところには水飲み場がない。あれだけの急なところを登るから、六国見の展望広場に水飲み場があってもいいと思

う。この台峯に本当に必要なのか、疑問を感じます。桜の自生かどうかという話に関しては、これは僕の個人的興味もあって質問させていただいたのですが、僕はあれ自生ではなく植林だと思っています。日本各地にいろんな里山があって、奈良の方で山の尾根道沿いだけに桜が植わっていて、そこが桜の花の季節になると、綺麗に尾根筋が浮き上がる観光名所になっているところがある。鎌倉市内にも尾根筋に桜が植えてあるところは他にもいくつか知っているのですが、これは多分植林ではないか。ここで自生と断言されているのは疑問に感じた。ナラ枯れ対策に関して、私自身が台峯緑地以外に六国見や逗子や葉山の方で、市や町と地主さんと県で三者協定を結んで整備をしているところのボランティア活動にも参加していて、ナラ枯れ対策も県や市町と地主さんも交えて話し合いをしながら、対策をどうするかの話をしていただいている。今回台峯に関しては、都市緑地公園という形で今後整備していくということで不特定多数の人が入るのに防止策を何もされないというのはどうなのか。大丈夫なのかというのが気になっている。実際 2019 年の台風以降ナラ枯れがかなり目立つようになったと思うが、実際に倒れて、枯枝が落ちてきてから対処されていることが多く、事前の防止策がされているように見えなかったのか、どうされていくのか。今回、安全対策という話が出てきているので、その辺はどのように考えて、この計画に今後盛り込んでいくのか気になりました。

[事務局] 谷戸池の蛍の生息地に関しましては、連絡を受けて状況を確認している状態です。そちらの方の管理方法に関しては今後、指定管理者と鎌倉市とボランティア団体の方で管理の方法について、ボランティアの方々のほうが詳しく認識されていると思いますので、密に協議しながら三者で管理方法について詳細に決めていきたいと考えているところです。水飲み場に関してはご意見を参考にして、配置について検討していきます。桜の自生についてもご意見を参考にしたいと思います。ナラ枯れ対策に関しては、現況としてナラ枯れをする前に何か対策をするという方法は確立されていない。ナラ枯れしてしまった樹木は、枯れて倒れて利用者の方に被害が及ぶ可能性があるため、いち早く現場確認をして、伐採作業をして対処しています。今後、指定管理者が巡回に入る際に現場確認をできる機会があるので、指定管理者と連絡を取って利用者の方に影響が出ない形にしたいと考えています。

[市民] 今の質問をしてくださった方、ありがとうございます。私はそういう視点を持ってないところがあったので、参考になりました。保全会の方でいくつかまとめたものがございます。少し長くなりますがいくつか質問と、今日いただいた資料はホームページから取れて私は印刷してきています。配られたものは返してくださいということですが、私が持ってきた分は持ち帰りたいですけどよろしいですか。

[事務局] はい。

[市民] それをもとに質問を作らせていただきました。質問は3つあります。この台峯緑地ですが、都市緑地法に該当するのか、都市公園法の該当なのかということで疑問があったのですが、今のお話の中からだと周辺が都市公園法に該当して、散策部など、これから計画されるところが都市緑地法の該当になるのか。これは法律によって整備が大きく違うと思います。そこについてお答えいただきたいと思います。それから整備範囲ですが、以前は緑地近辺しか整備をしませんというような話を伺っていたのですが、例えばベンチの眺望箇所というところがありますが、ここの北斜面は毎年、私たち保

全会の方で草刈り伐採をさせていただいています。数ヶ月手入れをしないとすぐに鬱蒼としてしまう。そうすると眺望は、ほぼ望めなくなります。これはベンチを置くところ、散策路全てにおいて同じことが言えます。どのくらいの頻度、範囲で整備をしていただけるのか、お伺いしたいと思います。ここの一部のところにはキンランという絶滅危惧二類という環境省レッドリストに載っている植物がある。ここも数年前、私たちの元代表が、下草をずっと刈り続けてくれた結果、蘇生している。その後、私たちがこの草刈りをすることによってキンランが甦っています。ただ、今の時期来ていただけるとわかるのですが、キンランが生えているところは草ぼうぼうです。これを春先に草刈りをすることによって、綺麗なキンランが甦る。こういった作業もやっていただけるのか。もうひとつは予算について、あとでまとめてお伺いしたいと思います。予算がどういう風に組み込まれているのか、とても関心があることなのでお伝えしておきます。それから、基本設計の中にありましたページの項目ごとにまとめてみたので、質問させていただきます。まず、階段・柵の検討について、これは今あったように過度のものは控えていただけるということで、擬木や景観を損なわないようなものでやっていただけるということですが、先ほどこの資料の中にあつた階段でやっていただけるのかどうかということが確認したい。それからサインですが、サインに関しても過度でないもの、今あるようなものでお願いしたいと思います。保全会としては他にもいくつかの場所をお願いしたいところがあります。書面を持って質問させていただきたいと思います。それからベンチ・水飲み場の検討について、水飲み場に関しては今質問してくださった方と全く同じです。あそここの場所に水飲み場が必要かどうかというのは、私たちはそこを整備しているので、南管理事務所がすぐ近くにあるというのがありますが、あの距離で水飲み場というのはいかがなものか。まずそれは、景観を損なうということが一つ。あそこまで水道を引くという予算費用もつたいないと市民として感じます。それから公園灯の検討ですが、北鎌倉女子学園の生徒の安全および災害時の避難場所のためということを目にしました。これは北鎌倉女子学園のグラウンドがあるのですが、日が暮れるまで運動している生徒はいらっしゃいません。それと同時にグラウンドに光がない。学校自体が生徒の安全のための光というのを考えていないであろうところに、生徒のための外灯をつけるというのは矛盾していると感じます。それから、災害時の避難ということであれば、3.11のことを思い出していただくとわかると思いますが、あのような災害があつた時はほとんどが停電します。停電しているところに、外灯があつても何の意味もないのではないかと思います。その電力を別に供給するような形を取ることが必要になるのではないかと思います。そして、桜類の保存の検討ということで、今回たくさんの桜を例に挙げてくださっていますが、現在、尾根筋にある桜は枝折れや穴が開き、また、テングス病や虫食いなどが見られ、かなり弱っているように見受けられます。このまま維持管理をするということなのか。樹木医のような専門家を入れて、生態系を見ながら保存していただけるのかどうか、その辺も含めて教えていただきたいと思います。そして、眺望広場の検討について、水飲み場や眺望、サイン、ベンチは必要ないのではないかと思います。ここはいろんな団体や子供たちが遊んでいますが、今は自然木のベンチがある。お年寄りも子供も座って眺望しています。あの眺望の広場には、そういったものが私たちは似合うと思っています。一般の公園にあるような四角いベンチを置く

より、そういったもので、あそこで癒しや楽しみを感じるような時間を過ごしていただけた方がいいと思います。それから落石防護柵について、これから水害が起きる危険性があると思うので、危険箇所には早急につけていただきたいと地域住民として思っています。それから一つお願いがあるのですが、ツノ坂というところがある。稲荷神社のところから山に入る道です。地元の方にお伺いすると、昔はそこから山に登って台峯に行った人たちがたくさんいたということです。なにかあった時に、もし北鎌倉女子学園のグラウンドに行くようなことがあれば、多くの方は稲荷神社の前を歩いてそちらに行った方が早く、より安全だと思います。ただ、あそこの斜面が比較的急勾配であるので階段を作っていただきたいと思います。計画に入っていると思うが、再確認ということでお願いしたいと思います。

[市民] 補足です。ツノ坂の入り口にあるフェンスですが、台の地区の古い方にお聞きすると、個人の方の要望でつけられたと伺っているが、あれがあることで道幅も狭くなっています。安全上でつけたものとも聞いていないので、できれば撤去していただきたいと思います。

[事務局] 一点目の都市公園法か都市緑地法かの話ですが、こちらは都市公園法に基づく都市緑地になっています。次のベンチの整備に関しましては、お話にあったとおり設置場所にキンランなどの希少種が入っている状況というのも確認をしているところです。今後の維持管理に関しましては、本市の発注する業務となった場合には刈払機で1面一帯を全部刈るという方法になってしまうかもしれない。それだとボランティア団体の希少種の保全にそぐわない部分もあると思いますので、その部分に関しては今後ボランティア団体から草刈りしていい箇所としてはいけない箇所などの話を伺いながら、維持管理、保全をしていければと考えているところです。予算についても話がありました。どのようなことですか。

[市民] 例えばベンチや公園灯、水道を作らない代わりに整備に回していただく。今あったナラ枯れは基本的には手入れをしない山で起きる場合もあるということを知っていますので、そういったことに回す。今の自然環境を守るような方向に予算を回していただけたら嬉しいと思います。

[事務局] 予算について、今回、整備の内容で水飲み場の話がありましたが、そちらの部分節約して、他の管理の予算に回せるかどうかという話だと思いますが、そういう形の考えではなくて、別で予算は計上しています。整備に必要であれば、その整備に関する予算要求をしますし、管理に関しましても必要と判断できたら、必要な分だけ予算要求をして獲得を目指していく形になっているので、基本的に別という形の考えになります。

[市民] 今までそういうことが起きた時に、今期の予算がないというお返事を何度かいただいたことがあります。そういうことがないようにお願いしたい。ふんだんに予算があるわけではないと思うので、そこは市民との話し合いだと思いますけれども、よろしくお願ひしたいと思います。

[事務局] 予算に関しましては、外周部など危険が生じる部分を優先的にやらせてもらっている形です。後回しになってしまっている状況はあるかとは思っていますが、必要な部分に関しては、予算要求をして対応できるように努めていきます。階段と柵に関しては、擬木の景観に馴染むものを設置する予定となっています。追加の箇所があるという話

しでしたので、そちらの方は頂いた文書等を参考にして検討を進めていきます。ベンチと水飲み場に関しましては、景観を損ねるという話もありましたので、こちらの部分に関しては皆さまのご意見を参考にし、必要性等整理して、設置するか検討していきます。次に、公園灯の必要性について、北鎌倉女子学園の方と話をさせていただきました。部活動で暗い時間にも女子学生が通るから必要性は感じているとのこと。また、例えば広域避難場所にグラウンドは指定されていますので、アクセスする際に夜間だったら公園灯があれば照らされるので、ある程度安全性を確保できると考えています。停電の話もありますが、蓄電池など停電の時に光る公園灯はありますので、種類も含めて検討していく形です。

[市民] 公園灯に関しては再検討していただけるということでお願いしたいのですが、夕方から暗い時間ずっと点いているのか、無駄な電力を使わないような形など、様々な方向から検討していただきたい。私たちはいらないと思っています。でも子供たちのためにということであれば、その言質を取っていただくことと同時に、どう必要なのかということも提出していただきたいと思います。

[市民] 補足です。生徒の安全というのは本当に一番大事なものだというのは私たちも思っていますが、実際に照明のないグラウンドで何時まで部活をされているのかという聞き取り調査とかなさったのか。

[事務局] 公園灯の必要性に関して、詳細な時間等の聞き取りはまだ行っていません。このようなご意見が多々ありましたので、今後、関係機関に話を伺いながら、本当に必要なかどうか検討を進めていきます。次に、桜の保存の方法について、先ほど樹木医を入れるかという話があったと思うが、現況の管理方法としては桜の枯れている部分の除去をして、桜であれば太めの枝を切ると枯れてしまう危険性があるので、腐らないような形の処理などを本市全体としてやっているところです。そちらの保存方法は台峯でも同じで、枯れている枝や完全に枯れてしまっているものに関しては倒木する危険性があるので伐採という形で管理していこうと考えているところです。次の眺望施設としてのベンチの必要性に関しては、必要ないという話だったので検討を進めていきます。その他の話で、おそらくツノ坂とは稲荷神社の脇から通った坂道のことを示しているらっしゃると思いますが、そちらの方に関しては確かに急勾配で結構登りにくい坂道になっているので、現時点で階段の設置を検討しています。入り口のフェンスの撤去に関してはまだ検討はしていないので、ご意見として検討させていただきます。

[市民] 今のお話の中に整備に関しては指定管理業者とお願いするということだったのですが、市民団体がいくつもあります。そういった団体と一緒に、市民と市が一緒になって里山の保全を行っていきたくて私たちは考えています。どこかで話し合いをしながら、情報確認しながら進めていければ嬉しい。市だけでは無理だと思う。お互い尊重しながら進めていきたいと思いますので、次の説明会までにどういう答えをいただけるのか、それも含めてよろしくをお願いします。

[市民] 保全会の方の質問にもあったが、公園灯に関連しての話ですが、逗子・葉山の方で県や地主と三者協定を結んで自然保護支援活動する団体にも参加している関係で生き物関係に詳しい方に聞いた話ですが、夜中に人工的な照明が里山の自然の中にあると野生動物に悪影響があるという話がある。谷戸保全会の方がおっしゃっていた北鎌倉女子学園の方が何時まで部活動で利用しているのか。通学の時間帯が何時頃までなの

か。その辺のリサーチが済んでからという前提になると思いますが、つけたままにして欲しくないという意見が一つあります。公園灯の設置を検討されているエリア、道筋について僕も個人的に台峯緑地のことに関して調べていて、一応赤道です。これはみどり公園課の方で整備するのではなく、道水路管理課ではないか。法律的に公道なのでお金も道水路管理課から出るのではないか。谷戸保全会の質問とやりとりを聞いて思いました。それからキンランの話について、貴重な野生植物はキンラン以外にもいくつかあって、みどり公園課から刈り払い機でやるという話があったが、刈り払い機が全面的にダメということではないのですが、どこにどういう貴重な植物が、いつの時期にあって、例えばキンランのためにはいつの時期にどれぐらいのところを、どういう方法で草を刈った方がいいなど、そういうのは谷戸保全会の皆さまが情報をお持ちだと思う。実際にここの整備に関わっている方がいて知見があるので、それをぜひ活かして、今後の整備計画基本設計を考えてほしい。谷戸保全会の方も言っていたが、ボランティア活動をされている団体が台峯にはいくつかありますので、鎌倉市と指定管理者と三者で話し合いができる場所もあった方がいいのではないかと。僕が個人的に逗子葉山の方でそういう三者協定を結んで話し合いをしながら整備活動しているところに参画しているので、要望があれば協力したり意見を言ったり提案したりということはできるので、検討してほしいと思います。

[事務局] 公園灯の悪影響に関しては、他の方からもご意見をいただいています。北鎌倉女子学園の利用者の方に聞き取りをして、本当に必要性があるのかを確認し、生態系の影響に関しても考慮しながら、慎重に設置を検討していきたいと思っています。赤道の話ですが、すでに都市計画緑地として供用開始をする予定になっています。都市公園法の都市公園として整備する予定です。園路という形での位置付けになると思いますので、みどり公園課の方で整備することになると思います。現状は道路管理者の道路用地になっていますので、協議しながら慎重に進めていきたいと思っています。キンランの場所に関しては、みどり公園課でもある程度場所を把握しているが、ボランティアの方の知識には及ばない部分がありますので、お話を伺いながら慎重に保全できるように維持管理を進めていきたいと思っています。次に、ボランティアとの連携について、台峯でもボランティア団体の方が活動されているので集まる場の必要性は感じています。具体的にどういう形で協議していくのか、結論までは至っていないので、今後検討していきます。

[市民] 質問ではなく意見なので答えていただかなくて大丈夫です。公園灯の設置に関して、自然動物に影響があるのではないかと話があったが、昨年、公園灯の設置を予定されているところの木にフクロウがとまっているのを見た。そこに公園灯が設置されたらフクロウにどう影響があるのか、すごく心配になりました。最初の方にもフクロウについて書かれているので、そこも踏まえて検討してもらいたい。例えば 17 時から 18 時のみ点ける、災害時のみ点けるなど、公園灯の設置についての提案はこの資料だけでは誰も納得しないと思う。災害時のものなのか、どういう時に点灯するのか、どういうものなのかというのをはつきり書いていただかないと市民は納得できないと思いました。ベンチに関しても現状の自然木のものがあって、最初の方のページにも良好な眺望と書いてあるように、鎌倉市の方々もこの眺望がいいということは皆さん分かっていることだと思う。そこのベンチを撤去するのか、撤去した後もこのよう

なベンチでは景観が良くない。違うベンチの候補や同じような自然木で新しくするなど、もう少し検討したらみんながハッピーになるようなアイデアがあるのではないかと思った。全てのアイデア、今回の計画書が駄目だとは思わない。安全性や眺望に関してすごく検討されていると思ったので、もう少し提案や使い方を具体的に示していただければ、みんな納得するのではないかと思います。

[市民] 本日は、市民が意見を挙げられるような説明会の時間を作ってください、どうもありがとうございました。私も一緒に考えたいと思って、この説明会の中の意見を出すための質問です。まず今回の説明会の目的ですが、自然生態系の維持管理や保全に関してではなくて、利用者が安全に利用するためのものということでもいいのか。2点目、3.1の【保全・活用方針】に書かれている「線と点での利用に限定して活用する」とあるが、具体的にどういったものなのか教えていただきたい。3点目は、落石の対応が防護網ということだが、落石がどうして起こっているのかわからない。防護網が最善策として選定された理由が知りたい。最後に公園灯などの生態系に影響のある可能性があるものに対しては、事前の調査、事後の調査、モニタリングというのをしっかりやっていただきたいと思いました。

[事務局] 1点目の質問に関しては、今回安全性という話をしたが、基本的に生態系の方針に関しては平成18年度に策定した基本構想や基本計画に基づいて、最低限の整備にとどめるという方針は決めています。今回の基本設計に関しては、それに乗っ取って最小限の施設整備をする整備内容の説明になっています。生態系の話がなかったと思いますが、そちらに影響が出ないような形で、最小限にする整備するという形で出来上がったものになっています。皆様の意見を伺って、生態系に影響があるからやめたほうがいいという話が出ましたので、再度検討して、それを案に反映できればと考えています。次の点と線での利用に関して、線というのは散策路で、点は広場的な位置づけのものになっています。点と線での利用というのは、現状、都市緑地は散策路と広場しかないので、それ以上に広場を作ろうとは考えずに、現況の散策路と広場を活用して整備するものとして考えています。次に、落石防護網の理由ですが、落石を防ぐ方法としては防護網やコンクリート吹付等、方法はいくつかある。コンクリートで吹付けると景観が灰色になり自然に馴染むものではないので、落石防護網を設置する検討をしています。最後に公園灯の必要性に関しては、改めて再検討させていただいて、必要かどうか判断していきたいと考えています。

[市民] 今回いろいろな目的があって、景観や防災もあり、ふれあいかつ利活用型里山にしていきたいなど、そういうところも含めて幅広い目的を持ったものになっていると思うが、桜を保全していくという話で、桜だけに目がいつているが、実は木はたくさんある。枯れ木があつたり倒木があつたり、もう葉っぱが出ないような弱っている木、穴が開いている木など全体的に見て古く、新しい若い木がないです。桜特有の病気やいろんな病気で枯れている。里山化していこうというところから見るとはるかに違う。現状は非常に苦しく思える。私の要望では、桜に限らず、他のところも含めて取り組んでもらえないかと思っています。

[事務局] 桜以外の樹木に関しても園路沿いで枯れている樹木は確認していますので、随時伐採や枝払いの業務を発注し、管理をしています。全てを確認するというのは難しいところがあります。枯れているものを発見した場合はご連絡いただければ、現地を見て

対応するなど、皆様のご協力をいただきながら管理できればと思っています。

[市 民] 三者協議会があるといい。

[市 民] もし教えてもらえるなら、これは結局いくらぐらいかかるのか。あと次に8ページの道の幅について、これが理想だけど、こういうふうに全部の道を広げるのか。それから、あのベンチはセンスがない。例えば、鎌倉には鎌倉竹部という素敵な団体があって、竹でいろいろなものを作っていたりするので、竹でベンチを作って置くというのもいいのではと思いました。あと擬木は市内に多いと思うが、濡れていると滑る。滑るのは何とかならないか。市民団体と定期的に話をする機会を積極的に持っていただけると非常にいいのではないかと思います。

[事務局] こちらの整備内容の金額に関しては、今後整備内容が固まり次第、概算で金額が出るので、現時点でいくらというお示しはできない状態です。次の散策路の幅に関しては、一律で決めてやるものではなく、現況の幅員をそのまま使う形になっています。これ以上現況を広く整備するということは考えていません。ベンチについては、再検討させていただきたいと思っています。擬木の滑りに関しては、対策はどういうものができるのかわからない部分はあるのですが、確認させていただきたいと思っています。最後に市民団体との協働については、複数の団体があることは承知しています。皆様の意見を聞いて管理する必要性はあると思います。今後、具体的にはどういう形で行うのかをお示しはできないが、引き続き検討をさせていただきたいと思っています。

[市 民] 擬木は普通の木ではダメですか。腐るだろうけどまた変えればいいのではないか。杭はちゃんとしたものでやったらいいと思うけど、横棒は普通の木にしたら滑らないのではないか。なぜ擬木に拘るのかわからない。

[事務局] 擬木を採用している経緯としては、風致公園に関しても擬木階段を設置している。デザインの合わせた方がいいと思うのと、管理上、更新の必要が木に比べたら少ないということで適していると思っています。

[市 民] (その答えは) ピンと来ないです。

[市 民] 台峯でたくさん遊ばせてもらったので、子供の視点からお話させていただきます。階段やベンチ、水飲み場は必要ないのではないかと思います。これまで遊んでいて困ったことがない。擬木は自然のものではないので、難しい部分があると思います。台峯はたくさんの方が通ることで地盤が固まっている。新しく階段を設置するために掘り起こすことでその地盤が崩れてしまう可能性があるため、安定しているところを崩してしまうのはもったいないと思います。階段のことについて、階段を設置した方が高齢者の方は登り降りしやすいかもしれないけど、まず1つ目に根っこが階段を設置しようとしているところにはあると思うが、根っこが踏み場になっていて登りやすいと思います。階段を設置することで、根よりも凹凸が増えてしまうので、転ぶ危険性が少し心配だと思います。2つ目に、鎌倉市内でも擬木階段を設置されているところを知っていますが、先ほど腐らないとありましたが、腐らないので周りが削れ、土との差ができてしまって歩きづらくなり、擬木は雨の日に滑ってしまうので、何も無い方がいろんなところを人が通るので圧力が分散されて一箇所が削れることも少ないのではと思います。階段はあまり必要性が感じられませんでした。たくさん対策していただいてありがとうございます。

[事務局] 階段やベンチ、水飲み場の必要性に関しては、今回の説明会の中でもご意見をいただ

きましたので、再検討させていただきたいと思っています。階段に関しては、急勾配の園路も多々あるので必要などころはあると認識しています。必要な箇所に関しては、精査しながら進めていきたいと思っています。

[市民] 私も子供の活動などを行っているし、竹林の整備もやっています、自然に関わりながら行政の方ともお話ししながら続けてきている。この中で少し気になるのは、先ほど何人かおっしゃいましたが、公園灯の扱いで、人間の側で言うと点灯する価値はあるが、生物が行ったり来たりしている中では、主に生物が動いているのは夜です。この地図を見ると北から南にずっとつながっていて、生物の通り道です。そこを真っ二つに公園灯が割るような形になるので、ここは賛成か反対かというよりも、生物多様性のベースであれば、そこはとても重要なポイントになると思う。これから検討されるということなので、その点は本当に専門家を入れてやらないと本末転倒になると思います。もう一つは、私は子供の活動でもお世話になっているんですけど、現状は開かれた空間の中で道路がはみ出して、例えば草を刈っていただいているところを広場にして活動することはよくあります。私はいろいろな団体の方にヒアリングをして、幼稚園、保育園、自主保育の方たちが一年中使っていて、公園の基本は広場と道、点と線ということですけど、そこからはみ出した空間で人は活動をしている。そこは公園として使えるのか。公有地なので公園としてはどのようなスタンスで、その立ち入りについては、どのように方針が決まっているのかをお聞かせください。

[事務局] 公園灯の必要性に関しては、生態系も考慮し整理して、検討させていただきたいと思っています。次のはみ出した園路の部分の考え方についてですが、管理としては危ない急傾斜の部分も多々ありますので、そちらの部分に関しては転落防止柵を作って通れないように対応させていただきたいと思っています。それ以外の広場などの部分に関しては自由に活用していただく形で、危険であれば管理上問題があるので、立ち入り防止柵等の検討が新たに必要だと考えています。

[市民] 利活用にとっても関係あることだと思う。その辺は今まで考えていなかったというのは話して分かったので、今回活かされるといい。

[市民] 鎌倉でこういう話し合いがある時に必ず出てくるのが歴史の話です。今、この山のお話をしている時に、やっぱりここでも歴史は絶対に注目すべきところではないかと思う。もともと里山だったわけですから、近年の歴史もそうですけど、縄文時代の歴史があそこの山にはあるわけです。そういった歴史や文化、それからさらに言えば、今も台峯には生活をしている方がたくさんいるところです。その自然環境を守り、後世に伝えるということが、今日の議題の中で出てこないのはどうしてなのかと思う。例えば、景観を損なわないということは自然を相手にする時には言いますが、僕は鎌倉湖が公園に整備される前、鎌倉湖で遊んでいた。公園になって周れるようになったけど、景観は変わりました。子供ながらにすごいびっくりした。景観が良くなった点もあるけど、全然場所が変わってしまった。今回も自然環境を守ることの中で、その地域の人たち、あそこで今も生活をしている方、それは今日も来てらっしゃいますけど、800年前とか400年前とか、そういう時代から住んでいる方がいるわけで、今この同じような意識を持って、今日会場に集まっていられる方だけではなく、そこが一体どういう場所なのか。それをどうやって、これから後世に伝えていくのかという議論が、もう少し市の方からも出てくるべきなのではないかと思います。

[事務局] 歴史的な構造物に関しても、台峯緑地が昔からある緑地で里山として保全されてきた経緯もあることは承知しています。本市の方ですべての歴史的な構造物について、近隣に住まわれている方々のご意見がないと把握しきれない部分もあります。いい機会とさせていただいて、歴史的な部分の知識がある方がいらっしゃいましたら、みどり公園課の方に教えていただければと思っています。それを基にみどり公園課の方で、なるべく保全できる形で施設整備をしていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

[市 民] 今の方、ご意見ありがとうございました。800 年前から住んでいる一族の一人です。先ほど三者で話し合っただけということがありましたけれども、その中に私たちも入れていただけると助かります。

[市 民] 山崎小の保護者で、市内で教員をしている者ですが、2つ確認させてください。山崎小の子どもたちはここをよく使って学びの場にしております。こういう話があるのは、学校には今日の説明会があること、こういう計画があることを伝えたのか。同じ教員がいるのですが、今日はたまたま情報を知って来れた。学校としてこういうことができないうか、みんなで使うこのトレイルをこれからどういうふうにしていこうか、今の学校教育の中でもプログラム、プロジェクトをどうやって進めていこうかということをお求められているのですが、ここはすごくいい題材になる場所だと思う。できれば市から学校へ、特に山崎小は隣接していますので、伝えていただくとありがたいと思います。もう1個、この後のスケジュールですけれども、これって非常にタイトだと思いました。年度内に確定というのは、この間に例えばその生態系のリサーチなど、近隣への聞き取りが起こった時に、条件は本当に確定するのか。そこが未確定のまま進んでしまうと、この後ここで遊んで育つ子供たちにとっては生きづらい場所になりかねないという危険や心配がありました。ぜひここは柔軟に伸ばしていただきたいと思いました。

[事務局] 山崎小学校に関しましては、今回の説明会の周知はしていません。今後必要ということですので、基本設計案に関しましては周知させていただく方向で検討させていただきます。次のスケジュールに関しても、ご意見いただいているところではあります。1月に公表予定と書かせてもらっていますが、検討する内容によって前後があるかもしれないです。事務局の方で柔軟に対応して、確定版を作成したいと思っています。

[市 民] そうすると、今日はこのステップ1と2の間の説明会。これと同様のものが今日の話し合いを基にバージョン2が出されるのですか。

[事務局] 基本設計(案)を策定する予定です。同様の意見募集と市民説明会をやる予定になっています。

[市 民] その中でまだ未確定なことがあると、確定版はまた延期になると捉えてよろしいでしょうか。

[事務局] 今後の基本設計(案)から次は確定版を作っていきたいと思っているが、そこはもう少し何か検討するべき事項があるようでしたら、随時変わっていくとは思っています。現時点でのスケジュールを目指しているところになりますので、それはいただいたご意見に基づいてスケジュールは柔軟に対応させていただきたいと思っています。

[市 民] 私は今、台峯緑地保全会と六国見山でボランティア活動をしています。私は、鎌倉の山崎に昭和43年に越してきました。その時に息子がちょうど10ヶ月で上の子が3歳

で、越してきた時に本当になんて子育てにいいところに越してきたのだろうと思って、すごく感激しました。今の中央公園がまだ田んぼと畑で、子供が田んぼに入ってドジョウを取ったり、泥んこになって毎日楽しく遊んだ場所です。それが一変して公園になってしまった。その息子も今 50 代半ばですけど、たまに帰ってきて「昔の面影は全くない。つまらない。こんなになっちゃったのか」と言う。もうなってしまったことはいいのですが、その息子も小さい時は池でどこかのおじさんがカエルを取って七輪で焼いて食べさせてくださった。そういうのがすごい楽しかったと言っている。それはあまり言っていないかどうかわかりませんが、今度台峯がまた公園になってしまうということで、うちの息子は台峯の自然の中で育ったような子なので、できれば本当に今のままで手を加えて欲しくないです。公園灯も欲しくないし、水飲み場も欲しくない。皆さんが公園として入られて、危ない箇所は手を入れてくださってもいいのですが、今日はもうお年を取ってお見えになれなかった方が、私達と一緒に台峯を少しずつ里山にしようと言って始めたものの一人です。里山で朝から晩まで泥んこになって遊んで帰ってきた息子がちゃんと成人してくれたんですけども、子どもたちにとっては本当の自然というのが生きていくために大事なところだと思う。それは私だけではないと思う。一時期、野村に買収されたところをまた皆さんが里山にしようということで、私の息子がここで大きくなった。昔越してきた頃の里山がすごく素敵だったのでお手伝いしますということで参加させていただいている。今度のこの基本設計に関しては必要じゃないことがいっぱいあると思っている。どうしても手を入れなくてはいけないところがあればいいけど、竹で埋め尽くされているところも、初めは 3、4 人で竹山を少しずつ切り開いた後にキンランが咲いた。すごくみんなで感激した。先程、刈払機で一斉に、時期も考えないで刈ってしまうような話を聞いた時に、皆さんがおっしゃるように市の方と私たちボランティアで、キンランはこの時期に咲くからいつ草を刈っていいとか話し合いをしたい。やはりあまり手を入れて欲しくないです。今のままで、やっとならしくなってきたところなので、公園灯をつけたりしてほしくないというのが私の考えです。

[事務局] 全体的な施設の必要性に関しましては、水飲み場や階段に関してはご指摘いただいているので、必要性は改めて検討させていただきます。維持管理についても、活動している市民団体の方にお話を伺いながら、慎重に木や希少種を維持していけたらと考えています。

[市 民] 擬木について、既存で擬木階段を整備しているところがあるので統一性の問題で擬木を選択というお話ですけど、素朴な疑問ですがあの擬木はコンクリート製ですか。それともプラスチック製ですか。

[事務局] プラスチック製です。

[市 民] それは最近話題になっているマイクロプラスチックについては問題ないですか。結局紫外線で劣化すると最終的には崩れてきますよね。

[事務局] 現状の風致公園では、朽ちてマイクロプラスチックの問題が出ている状況というのは確認できてない。老朽化の問題点に関しては調べたいと思います。

[市 民] 知り合いに造園業やっている人間がいて、コンクリートの擬木もプラスチックのように使っているということで話を聞いた。コンクリート製の方が実は耐久性が低いらしい。だから最近はプラスチック製の擬木の採用例が増えているという話です。ただそ

のプラスチック製の擬木も、その材料となっているプラスチック自体が最近ではマイクロプラスチック化するか、あるいはそれを防ぐために生分解性プラスチックを使っているかまではさすがにわからないらしい。今後そういうのを統一性の問題で統一したいというのはわかるが、マイクロプラスチックなど問題視されているところもありますから、その辺は加味して検討していただいて、今後に生かしてほしい。擬木でもプラスチック製よりは耐久性が低いけれども、生の木材よりは耐久性があるからコンクリートを選ぶというのも選択肢の一つであると思う。その辺は柔軟に考えて、今後良いように、悪いことにならないように考えていただきたいと思います。それから公園灯の件でフクロウの話があったと思うが、公園灯ができるとフクロウはいなくなると思います。実際、逗子葉山の方でハイキングコースの途中で街灯がある所があるのですが、基本的に夜は点灯させていないです。多分そういう話があったからだと思う。

[市民] 私自身鎌倉で育ちまして、鎌倉は公園がないと言われるのですが、公園がない分山で遊んで育ってきた。子供たちは鎌倉の山の中で遊びながら育ってきたという経験を持っているのですが、その経験の中で知っておいていただきたいと思います。山で遊んでいて、一番怪我が多いのが人工物での怪我です。擬木階段も普通のところには必要かと思うが、管理が徹底されていないとそれで怪我をするということもありますので、その辺もよく検討いただければと思った次第です。環境の面で言いますと、その表面的に、先ほど崩落の部分でコンクリートで埋めないという話はあったが、階段もその下の土の中のことも考えていかなければいけないのではないかと思います。ナラ枯れとか桜の木の衰弱など、全体的にこの10年でとても鎌倉の山が弱っていると、日々山に行くと感じます。環境面と安全面、もう一度検討いただけるとありがたいと思います。

[事務局] 人工物で怪我をされる方がいらっしゃるという話ですが、貴重なご意見として参考にさせていただきたいと思います。次に環境と安全面に関しては現状のいろいろな生態系が台峯緑地の魅力である部分が多々あると思います。そちらになるべく影響が出ない形で整備させていただければと考えています。

[市民] 次回開くときに、今回皆さんからいただいた意見やお願い事、リサーチも含めた上でもう一度提示していただきたいと思います。みんながいろんな意見をくれてとても勉強になっています。それがそのまま次の計画に生きるような形、次の提案をしていただきたいと思います。なし崩しに次を行うということに決してならないようお願いします。

[市民] 今回の意見は、意見書に書かないと反映されないのか。

[事務局] 本日いただいた意見等も我々の方で記載し、議事録も起こします。改めて書面で直接提出して頂いたり、郵送、FAX、電子メール、e-kanagawaの電子申請も利用できます。12月13日金曜日まで意見募集をしていますので、みどり公園課までご提出いただければと思います。皆様からのご意見、ご要望を参考に、基本設計(案)を作成したいと考えていますので、よろしく願いいたします。初めにご説明したとおり、資料につきましては素案であることから回収させていただきます。

[事務局] 貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。一番論点としましては、やはり皆さんのご意見をしっかり聞く。それから今後管理していく上でも当然皆さんとご一緒に管理していく。実はもう行政だけで管理をしていくのは非常に難

しい状態にはなっている。台峯だけではなくて、広町緑地もそうですし、鎌倉は皆さまのボランティア活動というのが非常に重要なポイントになっています。そういった意味でも、ボランティアの皆様のご意見を聞きながら進めていかなければいけないと我々も思っていますので、そこは今日みたいに忌憚のないご意見もいただき、ぜひご協力いただきながら進めていきたいと思っていますので、どうぞこれからもよろしくお願いたします。今日は長い時間になりましたけれども、遅くまで本当にありがとうございました。またよろしくお願いたします。

以上